不案配即席料理

207
112

国立国会図書館　不案配即席料理 : 3巻 207-112

ガラス使用

07
112

26. 9. 28

国立国会図書館　不案配即席料理 : 3巻 207-112

ガラス使用

天明四年

黒髪馬武詞戯作之書本人正知恩院井
三十郎之序文大比和之書詞有
又手撰今ト云ハ武門之撰所之色摺ニシテ作ル
此案ニ入ル

序

松竹梅

瀬川菊扇かいさめハ女護島で鳴をし谷風小野川が
猿眉ハ奥鷲山あて学ひ山林に住紀人も天王四時の
子紀をしたり燈籠の四時の物を紀を思ひ若人の衣服様も
宮中月ハよひ京夏とも思ひて雅の梅ハ酸うろふともい
ねハ居なからぬ所をしり麻なから穴を見るの饒是画
そうしの徳ハ天にひぐれむぐれハ地に満雅も老ゝる
を屋も茶屋も猫も板子を深山鳶も白鷺を豈艸双
帋を見さらん今や京傳が作の正味然目の口糧に童が
序文のおし乃ぬりれをふうしいと見えて屑賞の稱目
を欺事をおもふ

京傳妹十四歳小女
黒髪弐朝述

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

献立

おちつけさ
汁吸物（おんな衆のぬり椀傍仕立）

飯（おんなしのこの百姓の山伏やし）

平皿（よしの山深銅 背尾の松茸 死出の山いも 花生池れんこん）

抜口（根あり ごさのひさしもの）

かしらざい 鱠（はたかさの細身作り 紅中のはまちうち 乃ん うんしゅく）

焼物（らんじゃ銅の下敷やき）

香物（よしのの漬物 かくれんぼ）

汁（しいこ椀 あんこう）

かしらづけ 吸物（言尾山にてさんまとまいたけ めいど）

菓碗（なんぜんちのさるんかけどうふ）

汁酒（隅田川）

硯蓋（はぐめちどり なんまの目玉 よしの川菊めし きれふこ 川茸 三百姓の長やき）

川（丼）（言尾があきうり）

汁菓（なんぞの巻）

汁菓子（ぐらさとう 尾ぞうめ 料理人 京傳）

大平（三つまとの白うと とんびの こまごとく）

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

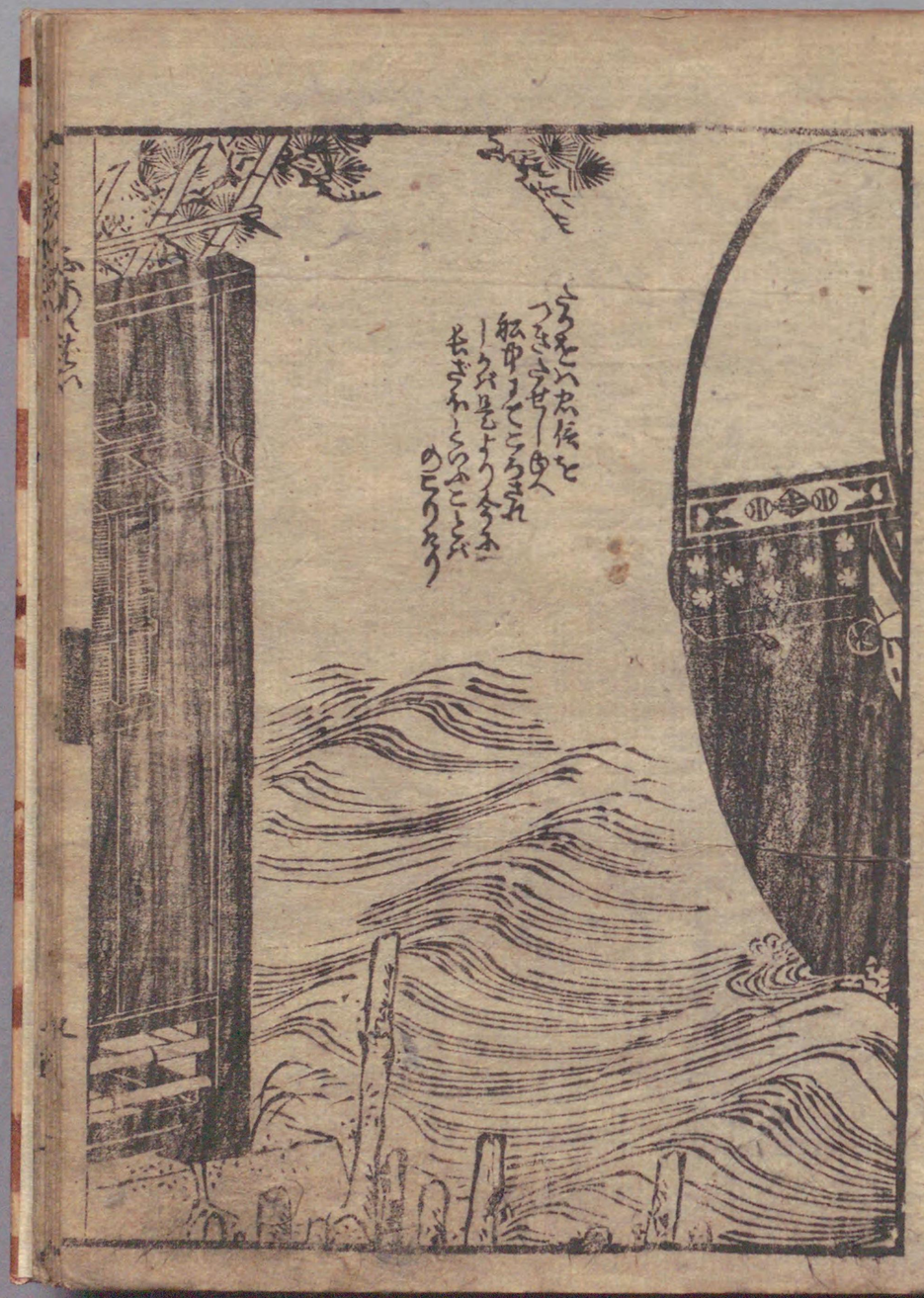
ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用



国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

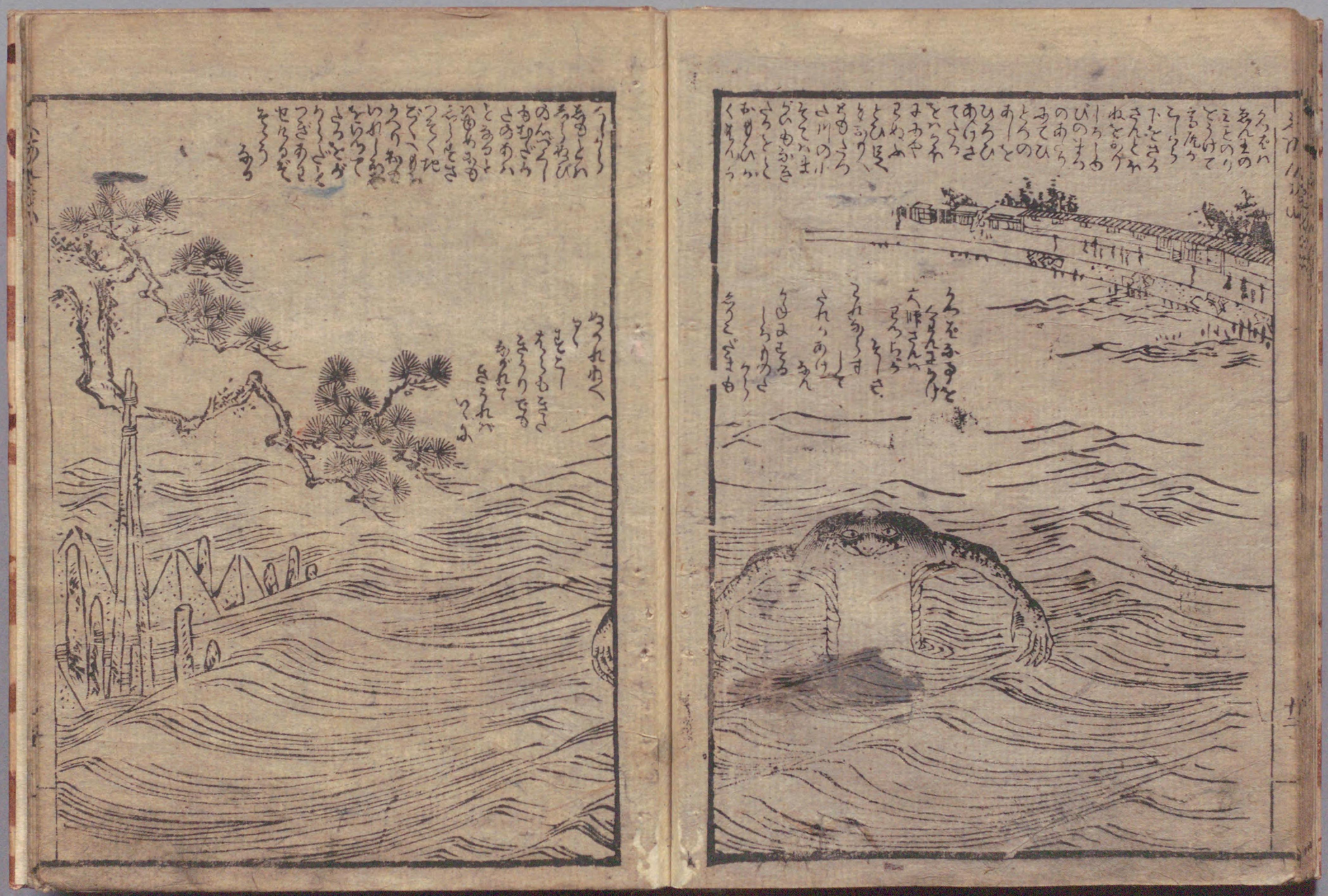
ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用



国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112

ガラス使用

207
112

野[illegible]人産

入ハウサク

辰春新板目録

備能日本智恵 上中下
闇羅三茶替 上中下 芝金交作
親動性桃太郎 上中下
不案配即席料理 上中下 京傳作
天慶和句文 上下 京傳作
他不知思染井 上下 小女黒鳶作
◐ぬ 全盛廓中丁子 袋入 京傳作
夫ハ楠 是ハ杤 太平記
天慶和句文 後 偏
地中記円下文 京傳作 来春出来

作者 燕川たる町 芝全交 京傳 小女黒鳶
板元 通油町 仙鶴堂 鶴屋

十五

国立国会図書館　不案配即席料理：3巻 207-112
ガラス使用

207
カ
112

国立国会図書館　不案配即席料理 : 3巻 207-112

ガラス使用

国立国会図書館　　不案配即席料理 : 3巻 207-112

ガラス使用